

第3期天草市新和地域まちづくり計画

『地域の“宝”の活用と交流による
“心ゆたかなまち”の創造』

天草市新和地域

制 定 日	令和5年3月1日
改 正 日	初版

第3期天草市新和地域まちづくり計画 目次

1	計画のあらまし	1～2
1.1	計画策定の趣旨	1
1.2	計画の性格	1
1.3	計画の期間	1
1.4	計画の体系	2
2	新和地域の概要	3～4
2.1	位置・地勢	3
2.2	面積・土地利用	3
2.3	人口・世帯	3～4
3	計画の基本方針	5
3.1	計画の基本理念	5
3.2	部門方針	5
4	分野別行動計画	6～10
4.1	産業経済部門	6
4.1.1	特色・課題	6
4.1.2	具体的な振興方策	6
4.2	観光（景観）・文化部門	7
4.2.1	特色・課題	7
4.2.2	具体的な振興方策	7
4.3	地域振興・教育部門	8～9
4.3.1	特色・課題	8
4.3.2	具体的な振興方策	8～9
4.4	福祉・生活環境・防犯防災部門	9～10
4.4.1	特色・課題	9
4.4.2	具体的な振興方策	9～10
4.5	地区振興会の組織の見直し	10
5	計画の推進体制	11
5.1	実施	11
5.2	評価・改善	11

6 地域別計画

6.1	小宮地地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	12～15
6.2	宮南地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	16～19
6.3	大宮地地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	20～23
6.4	大多尾地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	24～27
6.5	中田地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	28～31
6.6	碓石地区振興計画	・ ・ ・ ・ ・	32～36

1 計画のあらまし

1.1 計画策定の趣旨

平成 18 年 3 月 27 日、2 市 8 町が合併して天草市が誕生しました。市内各地域には、素晴らしい自然や独自の文化や歴史、豊かな農林水産資源、さらには、日々の生活で育まれた相互扶助の精神など、全国に誇れる地域資源が数多くあります。

しかしながら、今日、本市においては、人口減少の急速な進展による過疎地域の増加や担い手不足による地域産業の衰退、さらには市民ニーズの多様化や少子高齢化への対応など多くの課題を抱えております。

このような地域社会を取り巻く環境の変化を、住民一人ひとりが「自分ごと」、「みんなごと」と捉え、地域住民と行政協働のもと、地域の特色や個性を活かした活動をできることから実行し、「地域力」を高めていくことが重要になっています。

まちづくりに関する施策を効果的・効率的に推進するためには、地域住民と行政が一体となって、体系的・計画的に取り組む必要があるため、本地域のまちづくりの指針となる「天草市新和地域まちづくり計画」を策定し、「未来へ続く魅力ある地域づくり」を推進し、その実現を目指すものです。

今回、第 2 期天草市新和地域まちづくり計画を検証し、地域の課題等を再確認するとともに内容の見直しを行いました。

1.2 計画の性格

本計画は、次のような性格を持っています。

- ① 長期的・総合的な視点から、本地域が目指す今後のまちづくりの基本的な方向を示しています。
- ② 本市が策定する「第 3 次天草市総合計画基本計画」と方向性を共有しながら、地域が主体となって策定する計画として策定します。
- ③ 本地域の地域住民や行政機関のみならず、まちづくり関係団体、企業、学校など、地域全体でまちづくりに取り組む方向性を示しています。

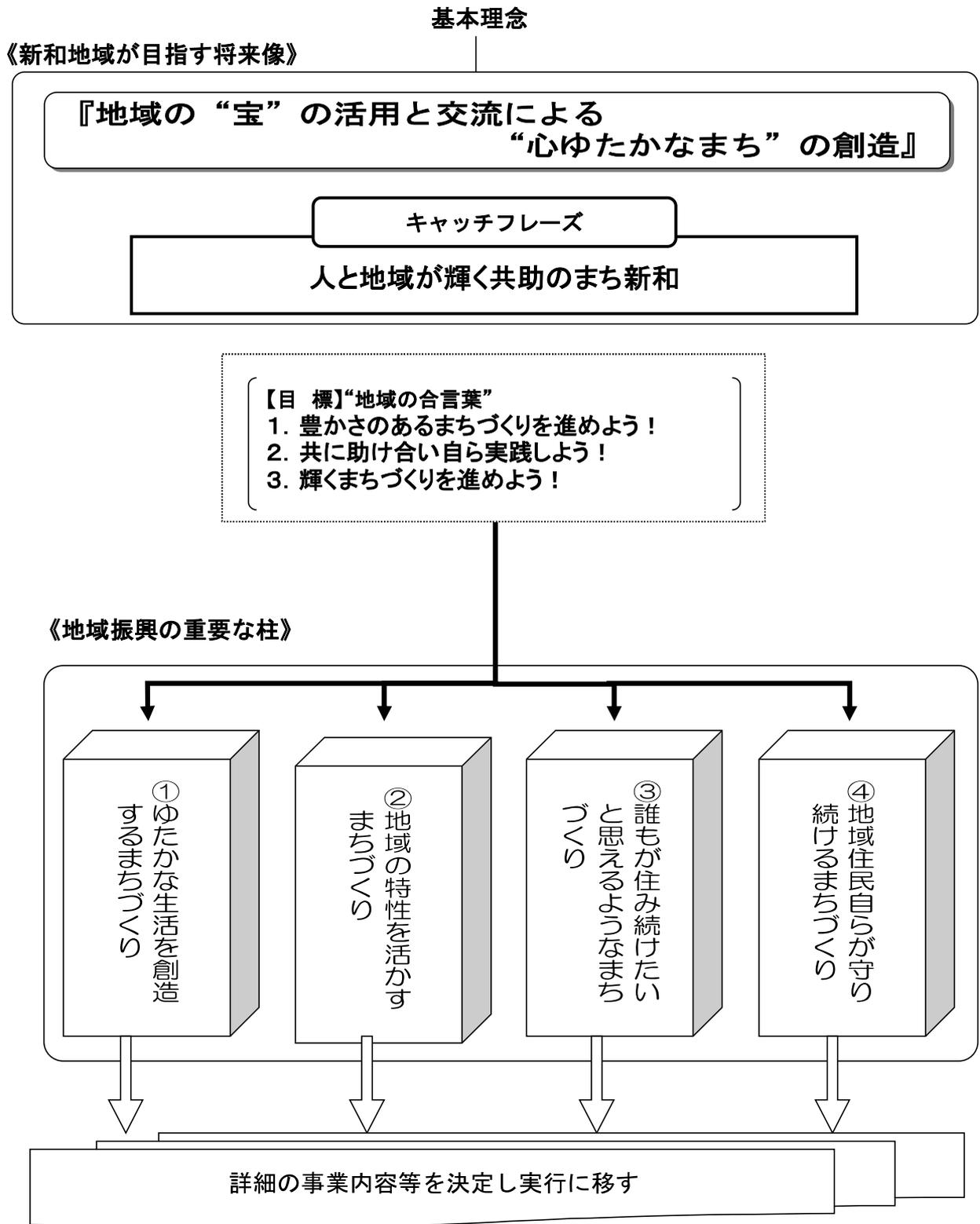
1.3 計画の期間

本計画の期間は、令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間です。

また、実現すべき施策目標を設定するとともに、その施策目標を達成するために必要な計画を示したものです。

1.4 計画の体系

図1 天草市新和地域まちづくり計画の方策の体系



2 新和地域の概要

2.1 位置・地勢

本地域は、天草下島の中東部に位置し、本市の中心市街地までは15分圏域にあります。中田港からはフェリーが運航され、鹿児島県長島町との間に海路も開かれています。

また、海・山・川などの豊かな自然資源を有し、一部は雲仙天草国立公園に含まれる美しい町です。特に、本地域の玄関口に群生する市の花“はまぼう”は、日本最大級の規模を誇ります。そして、四季を通じて自然体験が楽しめる「竜洞山」では、長崎県から鹿児島県を望める360°の大パノラマを満喫できます。さらに、竜洞山の麓では、「楊貴妃」伝説が言い伝えられ、本地域のシンボルとして様々な場面に登場しています。

図2 新和地域位置図

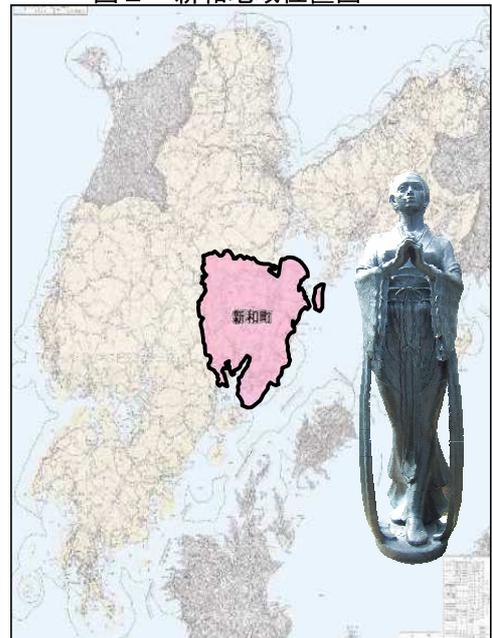


表1 新和地域面積

2.2 面積・土地利用

本地域の総面積は、55.22 km²で、市の面積の約8.07%を占めています。

土地利用については、全体の約86.4%を農地・山林で占めており、宅地・道路用地については約4.9%となっています。

	新和地域	天草市
面積 (km ²)	55.22	683.87
割合 (%)	8.07	100

(2018 (平成30)年10月1日現在)
(国土地理院九州地方測量部)

2.3 人口・世帯

表2 新和地域の人口、世帯数の推移

区分	2005 (H17) 年	2010 (H22) 年	2015 (H27) 年	2020 (R2) 年
人口 (人)	3,960	3,387	3,018	2,689
世帯数 (世帯)	1,318	1,245	1,190	1,112
世帯当たり人員 (人)	3.00	2.72	2.54	2.42



表3 新和地域の総人口、年齢階層別人口の推移

区分	2005 (H17) 年		2010 (H22) 年		2015 (H27) 年		2020 (R2) 年	
	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)
総人口	3,960	100.0%	3,387	100.0%	3,018	100.0%	2,689	100.0%
0～14歳	473	11.9%	324	9.6%	255	8.4%	208	7.7%
15～64歳	2,128	53.7%	1,764	52.1%	1,417	47.0%	1,171	43.5%
65歳以上	1,359	34.3%	1,299	38.4%	1,346	44.6%	1,310	48.7%



表4 新和地域の産業別就業者数の推移

区分	2005 (H17) 年		2010 (H22) 年		2015 (H27) 年		2020 (R2) 年	
	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)
就業人口総数	1,718	100.0%	1,528	100.0%	1,397	100.0%	1,334	100.0%
第1次産業	461	26.8%	414	27.1%	377	27.0%	350	26.2%
第2次産業	403	23.5%	299	19.6%	280	20.0%	263	19.7%
第3次産業	852	49.6%	815	53.3%	740	53.0%	719	53.9%



3 計画の基本方針

3.1 計画の基本理念

『地域の“宝”の活用と交流による “心ゆたかなまち”の創造』

新和地域の“豊かな自然”、“農林水産物”、“人財”など様々な資源（“宝”）を活用し、新たな特産品や観光メニューとして生まれ変わらせ、“豊かな生活”とともに“心の豊かさ”を迫及する“魅力あるまちづくり”を推進します。

また、進展する少子高齢化に対応するため、「地域自ら考え行動するまちづくり」を基本として、より安心・安全な地域づくりに努めます。

“まちづくりの主演”は、本地域にお住まいのみなさんです。

『新和地域が目指す将来像』 一緒に実現しましょう！

3.2 部門方針

本計画の基本理念に即し、次のとおり分野別に方針を定め、本地域のまちづくりを展開します。

①産業経済部門

ゆたかな生活を創造するまちづくり

②観光（景観）・文化部門

地域の特性を生かすまちづくり

③地域振興・教育部門

誰もが住み続けたいと思えるようなまちづくり

④福祉・生活環境・防犯防災部門

地域住民自らが守り続けるまちづくり

4 分野別行動計画

各地区における意見交換会等により、本地域の特色と課題を分野別に洗い出しました。また、部門方針及びそれに基づいた具体的な方策を本地域全体として意見交換で検討し、地域主体で取り組むもの、地域と行政との協働で取り組むもの、行政主体で取り組むものを分野別に分類しました。

4.1 産業経済部門

関連するSDGs
ゴールマーク



4.1.1 特色・課題

特色	<p>①早期米「コシヒカリ」の栽培をはじめ、花卉や野菜、くだものなどのハウス園芸や、温暖な気候を利用した「河内晩柑」、さらに「デコポン」などの栽培。</p> <p>②八代海に面し水産業も盛んで、一本釣りなどの漁ろうや「タイ・ブリ」・「クルマエビ」・「アワビ」・「アオサ」などの養殖。</p> <p>③地元企業が地元の素材を活かした商品づくりを企画している。</p>
課題	<p>①第1次産業の後継者不足や集落営農の担い手不足</p> <p>②農地の荒廃が進みイノシシなどの被害が増大</p>

4.1.2 具体的な振興方策

特色	課題	具体的な振興方策	目標数値等	実施期間				実施主体	備考 基本計画 対応番号
				短期			長期		
				R5	R6	R7			
③	① ②	○地元酒造メーカーとの協働による原材料を生産し提供。	焼耐用の原材料を生産。 作付面積 100 a	—————→				まち協 + 振興会 + 関係団体	政策 11

4.2 観光（景観）・文化部門

関連するSDGs
ゴールマーク



4.2.1 特色・課題

特色	<p>①雲仙天草国立公園に指定されており、シンボルの竜洞山からは遠くは鹿児島県、南と西には天草の山々、北には雲仙と360度の大パノラマを一望できる。また、近くには世界三大美女伝説の楊貴妃像が祀られている。</p> <p>②本地域の玄関口には、市の花で日本最大級のはまぼう群生地がある。</p> <p>③文化財・史跡も地域内に多くある。</p> <p>④農（漁）家民泊「新和ふるさと民泊の会」があり、教育旅行（修学旅行）を受入れている。</p>
課題	<p>①観光・文化資源の活用・PR不足。特に竜洞山みどりの村についてもPR不足である。</p> <p>②修学旅行の受入れは、大人数校の対応できる民泊受入世帯数が不足。</p>

4.2.2 具体的な振興方策

特色	課題	具体的な振興方策	目標数値	実施期間				実施主体	備考 基本計画 対応番号
				短期			長期		
				R5	R6	R7			
④	②	○農家民泊の推進 新和民泊の会と協働し、民泊受入家庭を増加させ、修学旅行や個人旅行者の受入を行い交流人口の増加を図る。	新規登録世帯数 10世帯 (現在 20世帯)					行政 + まち協 + 民泊の会	政策 16
①	①	○竜洞山みどりの村の再開発等について、市との情報交換と情報発信を行う。	ホームページ等での情報発信					行政 + まち協 + 関係団体	政策 16
②	①	○はまぼう群生地のPR まちづくりチャレンジ支援交付金を活用し、遊歩道の延伸、木道等の整備を行い、来場者が安心して散策できるよう整備を行う。また、夏の観察週間の開催や冬のライトアップ事業等を実施し、商品開発等と併せて、年間通した特色ある事業を図る。また、小中学生の参画を図りながら体験学習等を実施する。	・年間の来場者数 のべ2,000人					まち協 + 振興会 + 関係団体	政策 36

4.3 地域振興・教育部門

関連するSDGs
ゴールマーク



4.3.1 特色・課題

特 色	①6 地区振興会がそれぞれ特色ある活動を実施 ②地域住民と域外の人口交流の機会「しんわ楊貴妃祭り」の開催 ③スポーツ交流する機会として新和地区駅伝大会やみんなのスポーツ大会等の開催 ④公民館と連携して各地区で講座を開催
課 題	①高齢化が進む中で振興会の役員確保が困難 ②イベント内容がマンネリ化傾向にあり見直しが必要 ③人口減少によりスポーツ大会への参加者が減少 ④児童・生徒の減少 ⑤空き家の増加

4.3.2 具体的な振興方策

特 色	課 題	具体的な振興方策	目標数値	実施期間				実施主体	備考 基本計画 対応番号
				短期			長期		
				R5	R6	R7			
②	①	○地域の伝統・文化・祭りの継承 しんわ楊貴妃祭りの継続や各地区の伝統行事などを支援する。	現在行われている祭り等の継承					行政 + まち協 + 振興会	政策 9
①	①	○特色ある景観づくり 町の豊かな自然環境を守るため、地域で環境保全活動に取り組み、各地域の特色ある景観づくりを推進する。 地区振興会や行政区など各種団体との協働により、道路、地域のグラウンドなどの公共施設の管理を行う。	市道清掃ボランティアの実施回数 年 2 回					行政 + まち協 + 振興会	政策 35
③	③	○新和町民が集える場の提供 スポーツ推進委員会新和支部と協働で、駅伝大会を開催し、町民の交流を図る。また、新たな交流会（みんなのスポーツ大会等）を開催する。	・駅伝大会への参加チーム数 20 チーム ・みんなのスポーツ大会 のべ1,000 人					まち協 + 振興会 + ｽﾎﾟ推	政策 22

①	① ③	○高齢者の生きがいをづくり 敬老会を開催し、これまで新和 の歴史を築いてきた高齢者に 敬意を表するとともに、生きが い（楽しみ）づくりのための情 報の提を行う。	敬老会参加者数 300人	→					まち協 + 振興会	政策 20
①	②	○情報の発信 まちづくり協議会や振興会の ホームページ等を活用し、新和 町の旬の話題やイベント情報 を発信する。	ホームページの更新 頻度 2回以上/月	→					まち協 + 振興会	政策 28
①	⑤	○若者の定住活動の推進 行政と連携した定住促進活動	振興会ごとに調査を 行い、行政に情報を提 供 10世帯 30人	→					行政 + まち協 + 振興会	政策 33
④	① ② ④	○公民館講座の開催 子どもから大人までの学習機 会の提供	講座の開催数 年 10回	→					まち協 + 振興会	政策 8

4.4 福祉・生活環境・防犯防災部門

関連するSDGs
ゴールマーク



4.4.1 特色・課題

特色	①町内に巡回バスを運行 ②防犯連絡所協議会を中心とした防犯活動を実施 ③各地区振興会と自主防災組織が連携した避難訓練等を実施
課題	①高齢世帯及び一人世帯が増加 ②巡回バスの利用者がなかなか増加しない ③各種災害に対応できる避難所の確保

4.4.2 具体的な振興方策

特色	課題	具体的な振興方策	目標数値	実施期間				実施 主体	備考 基本計画 対応番号
				短期			長期		
				R5	R6	R7			
①	②	○交通不便地区への巡回バス 運行利用改善 行政と協働し、利用促進検討委 員会の開催し、利用状況の把握 や免許返納者への優遇措置な どにより利用促進を図る。	1日の平均乗車人数 40人	→				行政 + まち協	政策 29

②	①	○交通安全・防犯に関する意識の高揚 関係団体と連携し、交通キャンペーンや防犯見守りを行う。	高齢者や子どもの交通安全の意識高揚のための講座開催 年2回					行政 + まち協 + 振興会 + 関係団体	政策 30
③	③	○防災意識の高揚（自主防災組織の活性化） 各地区振興会や自主防災組織等と協働で防災訓練を実施する。また、自主防災組織を対象とした訓練を開催し、住民の防災に対する意識の高揚を図る。	防災訓練の実施回数 年1回 自主訓練開催の団体数 3団体/1年					行政 + まち協 + 振興会	政策 31

4.5 まちづくり協議会の組織の見直し

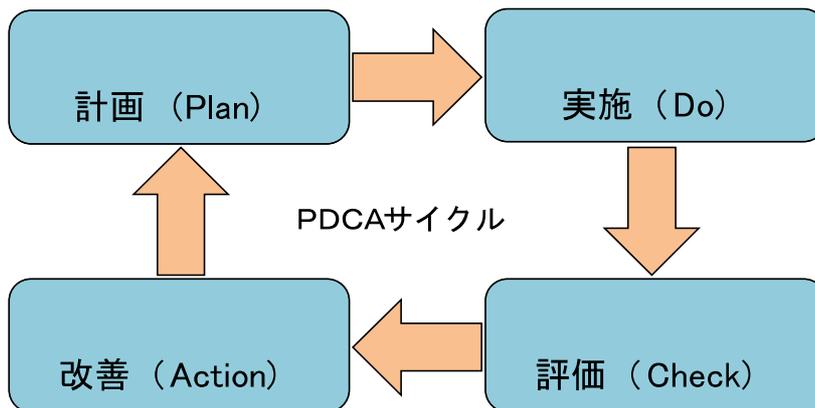
人口減少に伴い地域活動の担い手も減少し、活動自体の低迷が懸念されます。このため、将来を見通してのまちづくり協議会の組織のあり方を検討していきます。

5 計画の推進体制

本計画の推進体制については、新和まちづくり協議会を中心に関係団体及び行政と連携し推進するとともに、進捗状況及び目標の達成度等を年度毎に把握・評価を行い、地域情勢及び社会情勢の変化等も勘案し、必要に応じて計画の内容の見直しを行います。

その手法として、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）を繰り返すPDCAサイクルを用いて、継続的に計画を改善していきます。

図 8 天草市新和地域まちづくり計画の評価・見直し(PDCAサイクル)



5.1 実施

本計画に基づく施策の実施にあたっては、各実施主体を中心に新和まちづくり協議会、関係団体及び行政と連携し実施します。また、必要に応じて専門部会を設置し施策の推進を図ります。

5.2 評価・改善

本計画に基づく施策の実施状況等については、毎年度 1 回以上新和まちづくり協議会で評価を行うとともに、社会環境・地域環境の変化等も勘案し、必要に応じて計画の内容を見直します。

地区の概要(R2国勢調査参考)		
面積(k㎡)	20.3	
人口(人)	総人口	1054
	15歳未満	103
	15～64歳	454
	65歳以上	497
高齢化率(%)	47.2	
就業人口(人)	第1次産業	77
	第2次産業	97
	第3次産業	314
世帯数(世帯)	総世帯数	427
	高齢単身者	80
行政区数(区)	8	
学校	新和小学校、新和中学校	
文化財・史跡	小宮地城跡、越城跡、赤城跡、ガワツパの証文、銭持墓、愛宕様、西福寺、明栄寺 木場の船付場、合志公園など	
その他地域資源	大杉溜池、昭和溜池、小宮地新田、松原土手の桜並木、十五社宮の桜、はまぼうの群生地、楊貴妃像、ひだまりの里、宮地浦湾仕切り網漁体験	
地域伝統芸能	虫追い祭り	
地域づくり団体	菜の花デンチャーズ、馬場下竹の子会	
地区のいいところ・自慢できるところ		
①自然豊か(海・山・川に囲まれている。虫が見れる。星がきれい) ②新和の中心(病院・小中学校・支所がある) ③人と人との繋がりがあがる(地区ごとにまとまりがあって、近所付き合いがある) ④高齢者が元気 ⑤伝統的な祭りや神社の祭りが継続 ⑥犯罪が少ない		
地区が抱える課題・困っていること		
①少子高齢化・人口減少 ②仕事や働く場所がない ③耕作放棄地や空き家の増加 ④交通が不便 ⑤イノシシ・タヌキなどの被害が多い ⑥インターネットが未整備 ⑦子どもの遊び場が少ない		



←(宮地浦湾
仕切り網漁体験)



→(虫追い祭り)

◆◆◆ まちづくりの目標 ◆◆◆

テーマ

生きがいと活力のある、住みよい小宮地づくり

考え方

本地区の基幹産業である農業の活性化策を図りながら、地域の資源、文化、伝統を活用した交流事業を展開し、地域の活力を高めるとともに、地産地消と地域経済の活性化を目的とした加工品の販売や特産品の開発を推進し、地域の住民が共に健康で安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいく。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	<ul style="list-style-type: none"> 働く場を求め労働人口が市外に流出。 高校を卒業したら、市外に出てしまう。 大型店舗もなく、商店、飲食店も少ない。 広大な農地があるが、耕作放棄地も多い。 イノシシ、タヌキ等の被害が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の基幹産業である農業を活性化するために、耕作放棄地の活用や集落営農への協力。 後継者となる若者の定住活動を推進する。 ●耕作放棄地の活用 ●若者の定住活動の推進
【B】 観光 ・ 文化	<ul style="list-style-type: none"> 虫が多い。 伝統的な祭り(虫追い祭り)の文化がある。 仕切り網漁体験ができる。 観光施設が少ない。 文化財、史跡はあるが未整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統を継承するため、小中学校と連携し、次世代への継承を図っていく。 地域の行事や地域にある歴史や文化の理解を深め、情報発信に取り組む。 ●後継者の育成 ●地域行事等の情報発信
【C】 地域 振興	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減り、若者が少なく高齢者が多い。 高齢者が元気 老人会に入らない人が多い。 空き家、単身者が増えた。 小中学生が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の交流・親睦を深めるため、地域住民が誰でも参加できるような事業に取り組む。 高齢者が健康で安心して生活できるような生きがいづくりの場を提供する。 若者同士の交流の場を増やし、若者が住みやすい環境を作る。 ●各種スポーツイベント事業 ●高齢者の生きがいづくりの場 ●若者同士・若者と高齢者の交流の場・環境づくり ●地区ごと、年齢ごとの行事をつくる
【D】 教育	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校がある。 子どもの遊び場が少ない。 若い人が少ない。 小中学生が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生きがいづくりとして、次世代へ伝承の場を広げる。 青少年の育成を兼ねた学習の場を提供する。 ●講演会・学習会
【E】 保健・医療 ・福祉	<ul style="list-style-type: none"> 病院がある。 医療と福祉を一本化した福祉ゾーンがある。 高齢化が進み、一人暮らしの方も増加。 高齢者の移動手段が不便。 高齢者が元気。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が健康で安心して生活できるように見守り活動への協力。 ●高齢者の見守り協力(友愛訪問)
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪が少なく、自主防災組織がある。 商店・郵便ポストが少なく、店舗まで遠い。 空き家が多く、街灯も少ない。 インターネット環境が未整備。 交通機関が少ないため、車がないと困る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県道の景観保全活動の維持。(ひだまりの花畑) 各地区の自主防災組織の推進。 巡回バスの利便性の推進。 ●自然環境の保全・維持活動 ●景観形成の推進
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の増加。 若い人が少ない。 振興会を知らない人が増えている。 振興会の部会と行事の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンクの推進。 一定期間の居住できる住環境推進。 振興会の役割について知ってもらう。 ●ワークショップの実施(小中学生) ●SNSによる発信・振興会だよりの発行

小宮地地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期			長期		
				R5	R6	R7	4年以上		
A	カライモ栽培	県道沿いの休耕田を活用して、カライモを苗から栽培する。併せて地元の小中学生による植苗やつる返などの体験会を検討。また、地域イベントとしてイモ掘り体験会を企画する。	・植苗本数1,000本	→				振興会	
A	バザー出店	町内の各種イベントでのバザー出店(千本くじや豚汁など)	・実施回数1回/年	→				振興会	
B	文化財を活用した情報発信	地域資源を活用したフォトコンテストを実施。フォトスポットの紹介も行う。また、小宮地の魅力を町内外へ発信できるように各種イベントにて文化財等の紹介を行う。	・実施回数1回/年	→				振興会	
C	ウォーキングイベント	文化財などの地域資源を活用したウォーキングイベントを実施。	・実施回数1回/年	→				振興会	
C	球技大会	地域住民が誰でも参加できるイベントとしてグラウンドゴルフを含めたスポーツイベントを実施する。	・実施回数1回/年	→				振興会	
D	男の料理教室	5月～2月の第1木曜日に、男性が楽しく料理ができるように「男の料理教室」を開催。各地区の女性部長がスタッフとして従事する。調理内容は参加者の要望を取り入れながら行う。	・参加者数10人/回	→				振興会	
D	女性のための学習会・交流会	女性の活動機会を増やすため、生涯学習や研修会などを行う。また、女性同士が気軽に集まれる交流の場をつくり、子ども達の育成にもつなげる。	・実施回数1回以上/年	→				振興会	
E	高齢者の見守り(友愛訪問)	高齢者が健康で安心して生活できるように独居老人宅への訪問協力。	・1回/月	→				振興会	
F	ひだまりの花畑	休耕田を活用した、県道沿いの景観保全活動の一環。草払い・耕起は、地域の農業団体・振興会役員で実施。	・種まき2回/年	→				振興会	
H	組織運営	各部会の運営・部会間の連絡調整や事業に関するアンケートの実施。	・地域住民からの意見聞き取り等回数 1回/年	→				振興会	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

地区の概要(R2国勢調査参考)		
面積(km ²)	3.86	
人口(人)	総人口	183
	15歳未満	10
	15～64歳	68
	65歳以上	105
高齢化率(%)	57.4	
就業人口(人)	第1次産業	17
	第2次産業	27
	第3次産業	62
世帯数(世帯)	総世帯数	76
	高齢単身者	16
行政区数(区)	2	
学校	-	
文化財・史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・立の八大龍王 ・竜の穴 ・寺子屋跡 	
その他地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・竜洞山 ・みどりの村 ・立海水浴場 ・天草仏舎利塔 ・楊貴妃像 	
地域伝統芸能	-	
地域づくり団体	-	
地区のいいところ・自慢できるところ		
<p>宮南地区は、新和町の最南端に位置しほとんどが八代海に面している。気候は温暖で風光明媚な地区である。</p> <p>また、竜洞山展望所を有し、ここからの眺めは絶景である。その他に緑の村キャンプ場や立海水浴場がある唯一の地区であり、夏場は宮南地区の自然を満喫する観光客で賑わう。</p> <p>さらに、天草唯一の酒造会社「天草酒造」、KANPAIAMAKUSAが立地し、地元天草の焼酎を発信する拠点として、また、町外の方との交流の場となっている。</p>		
地区が抱える課題・困っていること		
<ul style="list-style-type: none"> ◇少子高齢化に伴い、活動力が低下してきている。 ◇公共交通機関が不便なため、高齢者の移動に苦労している。 ◇60歳を過ぎても、ほとんどの人が現役労働者のため、時間的余裕がない。 ◇現行の行事を維持していくのが精一杯の状況であるため、新たな活動に取り組めない。 ◇耕作放棄地の増加と害獣被害(イノシシ等)により田畑が荒れている。 		



◇◆◇ まちづくりの目標 ◇◆◇

テーマ	健康で安心して安全に暮らせるまちづくり
考え方	地域住民がお互いに助け合いながら、健康で安心して安全に暮らせるまちづくりを目指す。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	少子高齢化により労働力が低下している。	・高齢者の健康増進を図りつつ、住民同士協力しながら事業等を行う。
【B】 観光 ・ 文化	自然資産を活かせていない。	体験型民泊の推進、SNSで情報発信するなど啓発活動を行う。
【C】 地域 振興	高齢化が進み、スタッフの確保が難しい現状である。地域資源を活かした事業を行うことにより、住民の生きがいや、地域に誇りを持ってもらう。	竜洞山ウォーク参加者の増加を図りながら、地域の良さを再発見し情報発信を行う。 ・他の地区とのスポーツ大会等の共同開催を検討。
【D】 教育	子供が少なく地域が衰退している。	地域住民みんなで、子どもを見守りながら、地域及び子どもたちを育てていく。
【E】 保健・医療 ・福祉	高齢者が多く、自家用車(免許保有者)が少ないため、病院などの移動手段に苦慮している。	巡回バスが運行になり、交通の便は多少よくなった。パソコン講座、サロン等などを利用してもらい健康増進を図りたい。
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	地域の一部が地滑り危険箇所や急傾斜地崩壊危険箇所がある。「高齢者世帯が増えている」	災害に対する危機管理意識を持ってもらい、自主防災組織を中心に避難訓練を行う。困っている高齢者に対して草刈り等作業の支援を行う。
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画	振興会役員の成り手不足や、次世代の地域リーダーの育成が必要である。	振興会活動に積極的に参加してもらうよう、情報発信を行う。

宮南地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期			長期 4年以上		
				R5	R6	R7			
C	竜洞山健康ウォーク	200名余りの参加が見込める事業であり、みどりの村と協力しながら運営を行い、健康増進や地域へ貢献を行っていく。	参加者300人					振興会、みどりの村	
C	グラウンドゴルフ大会	地域住民の親睦融和を図り、グラウンドゴルフ大会を行っていききたい。	参加者50名					振興会	
E	パソコン教室(講座)	通いの場を作り、和気あいあいと脳と身体を活性化し健康増進を図る。	参加者20名					振興会	
F	美化推進事業	3地区の花壇を維持しながら、訪れる人に喜んでいただきたい。	参加者30名					振興会	
F	防災訓練	災害時に備え、市の一斉避難訓練と併せて、地区自主防災組織と共同により防災訓練を行い、防災意識向上を図っていききたい。	年1回実施					振興会+防災組織	
F	資源物回収事業	アルミ缶や雑誌など資源物を一か所に集め、2か月に1回資源物回収業者に回収してもらう。	年6回以上					振興会	
H	振興会だよりの発行	年1回、振興会だよりの発行を行っているが、更に情報発信の機会を増やしていききたい。	年2回以上					振興会	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

地区の概要(R2国勢調査参考)				
面積(km ²)		8.5	恵み豊かな大宮地	
人口(人)	総人口	305		
	15歳未満	19		
	15～64歳	135		
	65歳以上	151		
高齢化率(%)		49.5		
就業人口(人)	第1次産業	25	神掛けの滝	 
	第2次産業	27		
	第3次産業	77		
世帯数(世帯)	総世帯数	132		
	高齢単身者	32		
行政区数(区)		5		
学校				
文化財・史跡	五輪の塔 大宮地川の飛び石 正現寺跡 平家城跡			
その他地域資源	大宮地川・神掛けの滝（滝及び登山道周辺の化石や石の風化模様など） 大宮地八幡宮・大宮地天満宮 大宮地八幡宮古木大楠・天満宮ホルトの木 大宮地新田			
地域伝統芸能	大宮地獅子舞			
地域づくり団体	大宮地竹灯籠組合			
地区のいいところ・自慢できるところ				
<p>大宮地地区を東西に流れる大宮地川は、流量や規模において天草島内でも有数の河川であり、鮎や鰻、川カニ、シロウオ、アオノリなど川の恵みが豊富である。また、下流では海水と淡水が交わり、スズキやボラなどの遡上も見られる。この大宮地川は、取水により新和町内のほぼ全域の水道水を賄っている。大宮地川流域には天草市の花である国内最大級を誇る「はまぼう」の群生地があり、毎年7月から8月にかけて黄色く可憐な花を咲かせる風景は見応えがある。また、浪床地区には天草島内随一の大滝といわれる「神掛けの滝」があり、不動明が祭られ、古くから参拝者で賑わっていた。滝への登山道には化石や風化による石の様々な模様が楽しめる。</p> <p>伝統文化面では、毎年秋に行われる大宮地八幡宮大祭での神幸行列や鳥毛振り、子ども達による長刀振りや勇壮な獅子舞が奉納され、毎年多くの観光客が訪れる。また、小さな集落毎に十五社宮祭、稲荷祭、金毘羅祭、地蔵祭、山の神祭など伝統行事が継承されている。地域の活性化を図るため若い力を取り入れ、竹灯籠組合と協働している。地域の人間性については優しく、人情味の深い土地柄であることも自慢できるところである。</p>				
地区が抱える課題・困っていること				
<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少と少子高齢化が急激に進んでおり、地区行事の存続が危ぶまれている。 ○高齢世帯が増加しており、地域で支える福祉の充実が必要となっている。 ○古来より数々の恩恵を受けてきた清流大宮地川の水質低下が懸念され、環境改善への取り組みが必要とされている。 ○自分たちの地域は、自分たちで創りあげていくという共通意識を持ってもらうための取り組みを行う必要があり、まちづくりに対する意識の向上をいかに図るかが課題である。 				

◇◆◇ まちづくりの目標 ◇◆◇

テーマ	『健康で温かい、自然豊かな大宮地づくり』
考え方	大宮地地域には、代々受け継がれてきた人情味ある固い絆がある。地域において少子高齢化が進む現在、地域における支え合いを充実させ、地区民相互がふれあいを持ち、地域が健康で心豊かになる活動に取り組む。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化及び過疎化が進行し、地域活力が低下している。 ・主産業である第1次産業の後継者が減少している。 ・休耕地が増加しつつある。 ・振興会活動における自主財源の確保が課題。 	地区の環境保全に取り組み、地産地消及び自主財源の確保を図る。 ○大宮地川への稚アユ放流 ○農地等景観保全事業
【B】 観光 ・ 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光資源である「神掛けの滝」の散策ルートの開拓や「はまぼう群生地」の景観保全活動が課題となっている ・同じく貴重な地域資源を活用した体験型の観光イベントを開催し地区の活性化を図る。 ・気候変動等によるシロウオの漁獲量減少が課題。 	地域観光資源を有効に活用し、地域内外との交流人口の増加を図る取り組みを行う。 ○地域財産保全事業(はまぼう群生地・神掛けの滝) ○大宮地川シロウオ祭り ○竹灯籠組合との協働によるオブジェ展示 ○神掛けの滝ウォーク
【C】 地域 振興	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化及び過疎化が進行し、地域活力が低下している。 ・高齢化が進み、行事への参加者が年々減少している。 ・地域の青少年が地域資源に触れる機会が少ない。 	魅力的な地域づくりを推進するためには、「地域を担う人づくり」「歴史や伝統文化の継承」「地域資源の活用」「情報の共有」が必要であり、地域の特性を生かした活動に取り組む。また、地域コミュニティの推進を図るため、住民同士が触れ合えるイベントを開催する。 ○運動会・球技大会・女性スポーツ大会などの開催 ○伝統行事振興事業(大宮地八幡宮大祭) ○大宮地川自然体験事業
【D】 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいづくりとなる自主サークル等が少ない。 	地域住民が自己の能力向上や生活の充実を図るための生涯学習活動を推進する。 ○新和地区公民館出前講座(生涯学習推進)
【E】 保健・医療 ・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人世帯が増加している。 ・高齢者宅の定期的な見守りが必要となっている。 	地域における支え合いを充実させ、高齢者にとって安心して生活できる環境づくりを推進する。 ○生活福祉見守り事業
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化によりボランティア作業協力者が減少し、地域の景観維持が課題である。 ・地区の玄関口にある花壇の維持管理が課題である。 ・自主防災組織の活動活性化 ・地域住民の自助・共助の意識の向上 	地域の景観向上及び環境の改善を図るための活動に取り組む。また、非常時の災害に備え防災体制の認識を深める啓発活動に取り組む。 ○花いっぱい運動 ○クリーン作戦 ○避難訓練の実施 ○災害ボランティア養成講座の実施
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画	<ul style="list-style-type: none"> ・振興会役員の担い手の不足が懸念されている。 ・次世代の担い手となる地域リーダーの育成が課題。 	振興会活動の情報発信を定期的に行い、地域づくりへの関心を高める取り組みを行う。 ○SNSによる情報発信、振興会だよりの発行

大宮地地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期			長期 4年以上		
				R5	R6	R7			
A	稚アユ放流	大宮地地区振興会と大宮地活動組織が、くまもと里海づくり協会より稚アユの一部無償提供を受け、大宮地地区子ども会と毎年4月に1700尾の稚アユ放流を行う。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
A	地域財産保全事業	はまぼう群生地及び神掛けの滝登山道の景観保全作業を行い、観光資源として活用を促す。	各箇所毎年実施	■	■	■	■	振興会	
B	大宮地川シロウオ祭り	シロウオ踊り喰い体験・シロウオ漁体験と特産物のバザーを実施する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
B	竹灯籠オブジェ展示	竹灯籠組合等と協力をして若い世代の地域活動を活性化を促す。	毎年実施	■	■	■	■	振興会 + 竹灯籠組合	
B	神掛けの滝ウォーク	神掛けの滝と史跡を散策しながら、健康づくりと地域の活性化を目的にウォークラリーを開催する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
C	球技大会	地区住民参加の事業として、住民相互が触れ合う機会をつくるミニバレー・グラウンドゴルフ大会を行う。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
C	運動会	地区住民参加の事業として、住民相互が触れ合う機会づくりとして運動会を行う。	隔年で奇数年度実施	■	■	■	■	振興会	
C	女性のスポーツ	地元女性参加の交流事業としてグラウンドゴルフなどを実施する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
C	伝統行事振興事業	毎年10月に開催される大宮地八幡宮大祭の活性化に寄与し盛況にするため、バザーを出店する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
C	大宮地川自然体験事業	地元子ども会と地域住民の交流事業として川遊びアユ釣り・うなぎ釣り体験などを実施する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
D	新和地区公民館出前講座	地区住民の生涯学習活動を推進し、新和地区公民館と連携して地域のニーズに対応した講座を開催する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
E	生活福祉見守り事業	定期的な訪問により高齢者の状況把握と見守りを実施する。	毎月実施	■	■	■	■	振興会	
F	花いっぱい運動	地域住民の環境美化意識向上を図るため振興会管理の花壇へ400本の花を植え管理を行う。	年間を通し実施	■	■	■	■	振興会	
F	避難訓練	地区住民の防災意識の高揚と自助共助の醸成につなげるため、毎年実施される市の一斉避難訓練に参加し、定期的な訓練を実施する。	毎年実施	■	■	■	■	振興会	
H	広報活動	振興会活動及び地区の情報紙として振興会だより「清流」を発行し地区住民へ発行する。	年間2回程発行	■	■	■	■	振興会	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

地区の概要(R2国勢調査参考)			
面積(km ²)	10.8		
人口(人)	総人口		734
	15歳未満		59
	15～64歳		354
	65歳以上		321
高齢化率(%)	43.7		
就業人口(人)	第1次産業		148
	第2次産業		79
	第3次産業		194
世帯数(世帯)	総世帯数		296
	高齢単身者		53
行政区数(区)	8		
学校			
文化財・史跡	如意輪観世音、馬の足跡、下大多尾城跡、麟泉宮、経塚、惣兵衛が石、天附の古墳群		
その他地域資源	◆漁業 漁撈、養殖【クロマグロ、アオサ、アワビ】 ◆農業 水稻、果樹【晩柑、デコポン(不知火)】		
地域伝統行事	虫追い祭り、八百万の神々の祭祀		
地域づくり団体			
地区のいいところ・自慢できるところ			
・温暖で海、山に面して環境的にもいい(海のレジャーを楽しめる/高地や海岸線からの眺めが美しい/漁業集落と農業集落が混在・共存する地区/海産物や柑橘を中心とした農作物が豊富) ・近所付き合いがあり、仲がいいところ ・元気な高齢者が多い			
地区が抱える課題・困っていること			
・少子高齢化 ・災害時の避難場所(コミセン以外の避難場所の確保) ・地区全域が地滑り地帯である ・空家の老朽家屋が増加 ・耕作放棄などの遊休地や遊休した漁船の増加 ・一次産業経営者の高齢化、後継者(担い手)不足			

◇◆◇ まちづくりの目標 ◇◆◇

テーマ	海・山を活かしたうるおいのある大多尾づくり
考え方	これまで、海産物や農産物という豊かな地域資源を産み出してきた“海”そして“山”には、昭和の高度成長期から現在までに減退しつつも、埋もれてきたものが数多く存在する。技術革新による省力化など労働環境も大きく変化していることから、そのようなものを蘇らせ、また、地域住民が集うことで活気を取り戻し、老若男女がうるおいや幸せを感じる地域をつくる。そのことが、少子高齢化や人口減少の歯止めになることを期待する。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進行。労働人口の減少。 ・第一次産業の後継者(担い手)が減少している。 ・耕作放棄の遊休地の増加。 ・遊休した漁船の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限りある地域資源を把握し、活用する。 ○郷土再発見 ○情報発信
【B】 観光 ・ 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹園地や海岸線からの眺望が素晴らしい。 ・鍋割山を活用したウォークを開催している。 ・景観維持のため整備を行っている。 ・各地域において虫追い祭りが開催されることによる伝統行事の継承。 ・文化財、史跡の保全。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋割山や果樹園地からの眺望などの地域資源を活用し、地域住民の健康促進や地域内(外)での交流を深められるよう山道などを整備し、新たなウォークコースを模索する。 ○地域散策 ○地域資源環境保全
【C】 地域 振興	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進行。人口の減少。 ・元気な高齢者が多い。 ・引きこもり高齢者の増加。 ・集まる(話す)機会が少ない。 ・地区全体で行う「大多尾スポーツ球技大会」を毎年実施している(グラウンドゴルフ競技は参加者多数)。 ・各地域でスポーツ大会が実施されており、賞品代を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地区住民が参加し、交流や親睦を深めるために、老若男女問わず誰でも参加できるような種目を模索する。 ・鍋割のふもとを活用した高齢者の集える場所の提供。 ○大多尾スポーツ大会 ○スポーツ大会の支援
【D】 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと高齢者及び地域の交流の場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の持つ技術や知恵を活かし、子どもとのふれあいを通じて伝統文化などを継承できる事業を模索する。 ○ふれあい交流
【E】 保健・医療 ・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢世帯の増加。 ・元気な高齢者が多い。 ・高齢者の移動手段の不足。 ・老人会入会者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に集い、交流できるような事業を模索する。
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな海づくりを目指し、海岸一斉清掃を実施している。 ・地区全体で「花いっぱい運動」に取り組み、老人会も協同して市道沿線は花で溢れている。 ・自主防災組織ごとに避難訓練など行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな海づくりを目指す清掃事業や花の植栽事業を通じて、地域住民の環境意識の啓発につなげる。 ・非常時に安全に避難できる避難場所や経路の確認など自主防災組織での防災意識の啓発を図る。 ・安心安全な道路の見守り。 ○海岸一斉清掃 ○環境研修 ○花いっぱい運動 ○災害ボランティア養成講座
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍋割のふもと」運営について、使用料の問題や動力などの施設費用を抑えている為、真夏の使用が厳しく、利用が伸び悩んでいる。 ・SNSなどで大多尾地区の情報発信を定期的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用料が妥当なのか検討し、他の事業と合わせて運営していくことで利用促進を図っていく。 ・Aマップ・Facebookなどの媒体を利用し、大多尾地区の情報発信を行っていく。

大多尾地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期		長期			
				R5	R6	R7	4年以上		
A	郷土再発見	昔ながらの郷土料理や伝統技術を学び、次世代へ受け継いでいくことを目的とする。	年2回	→				振興会	
B	地域資源環境保全	ウォーキングコースの道路整備や景観維持のための清掃作業、文化財・史跡などの保全活動を行う。	年2回	→				団体 振興会	
B	地域散策	景観を活かした新たなコースづくりも検討し、地域の良さ再発見、健康づくりも意識して取り組む。その結果、観光資源としての活用を目指す。	年1回	→				振興会	
C	スポーツ大会	親睦融和のため実施する各地域スポーツ大会に世帯数に応じて賞品代を支援する。	年1回	→				区	
C	大多尾スポーツ大会	年に1度、地区住民が参加する球技大会を実施する。また、競技種目については、必要に応じて検討していく。	年1回	→				振興会	
C	伝統工芸製作	竹灯籠・イルミネーションを製作し、大晦日に神社・寺を参拝される地域住民や帰省客をもてなす。	年1回	→				振興会	
D	ふれあい交流	高齢者の持つ技術や知恵を活かし、子どもと交流活動を目的とする。	年1回	→				振興会	
F	災害ボランティア養成講座	地域ごとの防災意識を高めるための啓発を図りながら、自主防災組織での活動を推進していく。	年1回	→				振興会 地域防災組織	
F	花いっぱい運動	年に2度、各地域での植栽作業を行い、環境美化に努める。	年2回	→				振興会 老人クラブ	
F	環境研修	生活スタイル・実情にあった研修を目指す。(例:ゴミ対策など)	年1回	→				振興会	
F	海岸一斉清掃	全住民がきれいな海を目指し、海岸一斉清掃を実施する。	参加者数400人	→				区 振興会	
H	鍋割のふもと運営事業	多くの人が集う施設を目指し、利用促進を図る。	利用率20%上	→				振興会	
H	振興会だより発行	振興会の活動を多くの住民にPRするため、振興会だよりを発行する。	年2回	→				振興会	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

地区の概要(R2国勢調査参考)		
面積(km ²)	6.0km ²	
人口(人)	総人口	211
	15歳未満	6
	15~64歳	71
	65歳以上	134
高齢化率(%)	63.5	
就業人口(人)	第1次産業	21
	第2次産業	17
	第3次産業	44
世帯数(世帯)	総世帯数	98
	高齢単身者	27
行政区数(区)	4区	
学校		
文化財・史跡	菅原神社 十五社宮	
その他地域資源	八十八ヶ所 入江公園 えびす祭り	蛭がたくさんいる 恵比寿様の水
地域伝統芸能		
地域づくり団体		
地区のいいところ・自慢できるところ		
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率の高い地区であり、振興会発足当初から高齢者が家に閉じこもりがちがないように、コミセンに集う環境づくりを実施してきたこと。 ・集落がまとまっているため、地区間及び人間的なまとまりがある。 ・漁業と農業の両方があり、お互いに協力しながら地域づくりを行っている。 ・環境が良く、ホタルの乱舞が地区のあちこちで見られる。 ・天草八十八ヶ所・四十五番札所となる中田大師堂があり、西区中央の小高い所から山頂にかけて一周するように一番札から八十八番札所まで八十八体の地蔵尊が祀られている。 		
地区が抱える課題・困っていること		
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化で地区の人口は減少し、地区の行事自体の存続が危ぶまれている状態である。また、それに伴い、事業への参加者が固定化されつつあるため、一部の住民での取り組みになっている。 ・中田地区の老人会やサロンが解散し、通いの場(介護予防体操)のみ存続しているが男性の参加が少ない。 ・地区の中に商店が1か所あるが十分な品揃えがなく、移動販売や他地区まで行かないと買い物ができない。 ・荒廃農地等が増えてきている。・避難場所が大雨・津波以外の時は地区内にないので困る。 ・空家が増えてきている。 ・有害鳥獣(特にイノシシ)被害の増加。 		

えびす祭り



入江公園

テーマ	美しく豊かで活気ある中田づくり
考え方	「美しく豊かで活気ある中田づくり」を目指して、住民主体のまちづくりを推進し、住民自治の充実強化と自治組織の向上を図り、自立した住民自治体制による民主的な明るい地域づくりを行う。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関係の保全団体等で整備された農地の景観等は保たれているが、そうでない農地については荒廃が進んできている。 ・高齢化で後継者が不足してきている。 ・主な産業もなく高齢化率も高い。買い物にも困る 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作希望者への情報提供や農業関係保全団体との連携により、荒廃農地等の抑制を図る。 ・移住者や帰郷者の活動を新和まちづくり協議会へ提供し、ネット等の配信により、地区内の居住者を増加させる。
【B】 観光 ・ 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地区に伝わる伝統芸能(虫追い踊り)が、H29年に後継者不足により廃止となったので、記録として残すため、R3年に「中田虫追い踊り記録誌」を発行した。 ・天草88か所霊場巡りの一つ「中田大師堂」があり、地域住民により月に一度保全活動が行われているが、高齢化が進み維持管理が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで守り継がれた文化財を継承するため、方策を文化財維持に関わる人と共に考え、文化財保全を支援する。 ・文化財めぐりなどを通じて、郷土愛を育む事業の実施。
【C】 地域 振興	<ul style="list-style-type: none"> ・顕著な高齢化と若年層の減少により、地域づくりの担い手が不足している ・事業への参加者が固定化されつつある。 ・地区の活力が減少する中開催される「中田夏祭り」は、地区住民が団結して運営を行い、高揚感を持てる地区振興会の一大イベントである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「美しく豊かで活気ある中田づくり」を目指し、地域づくりに対する住民の意識向上を図り、各世代が参画できるよう事業内容を見直し、地域全体の活性化を図る。 ・夏祭りなどイベントの充実及び活性化のための研修会を実施する。
【D】 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種公民館講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・新和地区公民館と連携し、各世代に応じた地区住民の生涯学習の場を住民のニーズに沿って提供する。
【E】 保健・医療 ・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加するとともに、高齢者のみの世帯が増えてきている。 ・コミセンを利用し、健康づくりについての活動を実施している団体が多くなっている。 ・高齢男性の集える場所や機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して生活できる見守り体制と生活環境の整備に取り組む。 ・高齢者が集い楽しめる事業の推進及び支援。
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内に商店が1箇所あるが品揃えが不足している。 ・災害時における支援体制の周知が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで守り継がれた地域の自然豊かな環境を保全し、安心して生活できる環境整備を整える。 ・ホテルが生息し続ける環境保全活動の支援。 ・消防団の点検日に合わせて自主防災組織との合同研修や防災士による防災講座の開催。
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体との連携を充実する。 ・SNSによる情報発信、振興会だよりの発行 	<p>天草市地区内(新和地区含む)の他団体との連携を図る。 新和まちづくり協議会事業及び公民館事業連携・協力を図りながら、コミュニティセンターの指定管理を行う。</p>

中田地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期			長期 4年以上		
				R5	R6	R7			
B	鬼火焼き	伝統行事の伝承と地域住民の親睦の場として、継続して実施する。年1回、入江公園で鬼火焼きを実施し、参加者50名が目標。今後も伝統行事として継続する。	参加者50名以上	→	→	→	→	振興会	
C	お花見交流会	H30年から春の行事として、中田入江公園に咲く桜の下で地区住民とお花見しながら親睦を深める。	参加者50名以上	→	→	→	→	振興会	
C	中田夏祭り	毎年8月14日開催予定。中田に帰省した方を含め、手づくりによる交流イベントとして実施。500名の集客を目標。地区内外との交流の場として、これまでどおり継続し実施する。交流人口の増加を図るため、ステージイベント内容の充実や花火打ち上げの継続を検討する必要がある。	来場者数500名以上	→	→	→	→	振興会	
C	グラウンドゴルフ大会	年1回実施し、参加者50名が目標。生涯スポーツを通じて、地域住民の健康づくりを行うため、これまでどおり継続し実施する。	参加者50名以上	→	→	→	→	振興会	
C	中田地区交流会	隔年で実施し、地域住民の3割の参加が目標。若者から高齢者まで誰でも参加できる競技を通じ、地域住民の親睦と融和を図る。	参加者70名以上	→	→	→	→	振興会	
C	中田碓石地区合同球技大会	隔年で中田、碓石地区振興会が交互に主管し開催する。中田・碓石地区の交流と学舎への思い出を忍ぶため、これまでどおり継続し実施する。	参加者70名以上	→	→	→	→	振興会	
C	女性の交流会	女性のための交流会(グラウンドゴルフ大会など)を実施。大会後の反省会で、今後の交流会の内容などを検討してもらい、女性の交流の場を充実させる。その中で寄せられた様々な意見などを振興会活動の参考としたい。	年1回以上開催	→	→	→	→	振興会	
E	健康運動教室	仕事などで昼間に運動が出来ない方を対象に、H29年から週1回夜間に健康運動教室を実施している。内容は筋トレ・有酸素運動など。	参加者10名目標	→	→	→	→	振興会	
E	介護予防教室	高齢者の増加に伴い、安心して生活できる見守り体制の構築支援と、地区全体で年1回の介護予防・福祉関連の研修開催を調整。	年1回介護予防教室実施	→	→	→	→	振興会	
F	入江公園環境整備事業	住民の憩いの場である入江公園の維持管理を継続して実施する。内容は年3回程度の草払いなど	作業参加者20名以上	→	→	→	→	振興会	
F	資源物回収活動	月2回アルミ缶を回収し、年6回業者へ販売する。環境保全活動と資金源確保のため、継続して実施する。	月2回の回収を実施	→	→	→	→	振興会	
F	地域福祉ネットワークづくり	住民が心豊かに生活するため、災害・地域福祉ネットワーク活動を支援する。自主訓練を行う場合は、関連機関と訓練内容の調整・支援を行い、避難場所の管理・運営については住民の意見集約を行う。	年1回実施	→	→	→	→	協働	
H	他団体との連携	天草市地区内(新和地区含む)の他団体との連携を図る。新和まちづくり協議会の事業及び公民館事業への協力。コミュニティセンターの指定管理を行います。		→	→	→	→	協働	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

中田地区振興計画 行動計画

②新たに取り組むべき事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体	備考
				短期		長期			
				R5	R6	R7	4年以上		
A	荒廃農地等対策事業	人口減少や高齢化等により増加が予想される荒廃農地等の情報を農業関係保全団体などと共有し、耕作希望者へ情報提供する。		→				振興会	
B	伝統芸能・文化財の保全活動	地区内の文化財の看板等を含む保全活動を実施する。 ※令和元年看板立て直し作業実施。	年に1箇所以上	→				振興会	
C	八十八ヶ所ウォークラリー	新和地区内では各ウォークラリーを考え実施されている。中田地区でも文化財を巡るウォークラリーが実施出来たら、周辺の整備や景観保全活動にもつながるので実施出来るよう計画していく。	参加者50名以上	→				振興会	
D	公民館講座の推進	通いの場の団体等に要望に沿った各種公民館講座を案内し実施する。老人会・サロンが解散したので何か集まる場はないか考える。	年1回以上実施	→				振興会	

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

地区の概要(R2国勢調査参考)					
面積(km ²)	5.7				
人口(人)	総人口			211	
	15歳未満			6	
	15～64歳			71	
	65歳以上			134	
高齢化率(%)	50.5				
就業人口(人)	第1次産業			61	
	第2次産業			23	
	第3次産業			54	
世帯数(世帯)	総世帯数	75			
	高齢単身者	16			
行政区数(区)	2				
学校	なし				
文化財・史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿弥陀本尊跡 ・ 黒蔵菩薩 ・ 中野猛雄 氏 ・ 碓石 ・ 経塚 ・ 正教寺 ・ 水神様 ・ 保食神 				
その他地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大淵 ・ 延命地藏 ・ お大師様 ・ 亀ヶ淵 ・ 碓石神社 ・ 天草ゆ楽園 ・ 金比羅宮公園 ・ 金比羅宮 				
地域伝統芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 碓石讃歌 ・ 山の神奉納相撲 				
地域づくり団体	碓石自治会、きばろ一隊、ひま陣会、天女会、スポーツクラブ、防除組合				
地区のいいところ・自慢できるところ					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊かで静かな町。 ・ 食事処や温泉がある。 ・ 地域内に協力体制がある。 ・ 伝統のふるさと祭りを大事にしている。 ・ 住民の顔がわかる。 ・ 子供会の行事の充実。 ・ 地域間の交流を行っている。 ・ 農産物の加工を行っている。 ・ 炭の生産を行っている。 ・ 土着菌と土着菌堆肥の製造販売。 ・ 土着菌を活用した安心安全な野菜作りに取り組んでいる。 					
地区が抱える課題・困っていること					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化と高齢者世帯の増加。 ・ 独居世帯増加。 ・ 空き家の増加。 ・ 子供の遊び場がない。 ・ 道路が狭い。 ・ 買い物処が遠い。 ・ 産業がない。 ・ 農業の衰退、農地の荒廃と後継者不足。 ・ 害獣被害がある。 ・ 地域の施設の管理。 					

◇◆◇ まちづくりの目標 ◇◆◇

テーマ	質にこだわる元気な碓石づくり
考え方	住民自治の強化と組織力の向上を図り、住民自治による民主的で明るく元気なまちづくりに取り組みます。

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	地区の主力産業である一次産業(農業・林業)の担い手の減少や高齢化が顕著に進んでいる。また農地や山林の荒廃も進み、地域全体で取り組む必要がある。	○住民が参加できる産業づくり ・高齢者が取組める農作物の研究の実施。 ・安心安全な野菜づくりを実施する。 ・振興会の自立に向けた活動資金作りを目指し、碓石地域の特性を活かした産業づくり。
【B】 観光 ・ 文化	・地区内外に向けてイベント(ふるさと祭り)を開催している。運営人数が減少し組織の見直しが必要。 ・民泊業を営む家庭がある。 ・景観整備のため事業を行っている。(花壇・グラウンド等の美化活動・宮地岳地区との共同で亀ヶ淵整備)	○伝統と景観を生かしたまちづくり ・伝統を受け継いだ事業を実施する。 ・地域の景観整備事業を実施する。
【C】 地域 振興	・地域間、地区内の交流を目的に事業を実施している(夏祭り、スポーツ大会、鬼火焼き等) ・古くから自治組織(自治会)があり、協力体制や団結力がある。	○地域で協力するまちづくり ・自治会その他地区の団体と協力して事業を実施する。 ・地域間交流(新和町内、宮地岳地区)、帰省客の交流イベントの実施。
【D】 教育	・子どもたちの生きる力、郷土愛を育むため、自然体験(炭焼き体験、河川の美化活動、竹あんどんつくりなど)、を実施している。 ・子供たちの教養を高めるため書道教室を実施している。	○子どもたちの生きる力や郷土愛を育むまちづくり ・子供会等地区内各種団体と協力しながら実施する。
【E】 保健・医療 ・福祉	・高齢者の長寿を祝うため、新和地区の敬老会参加、ふるさと祭りでの古希、米寿の祝い式典の実施。 ・子どもと高齢者の交流のため、毎年事業を検討実施している。 ・高齢者がいつまでも元気に暮らせるよう、高齢者を対象に筋力トレーニング教室を開催している。	○いつまでも暮らせるまちづくり ・子どもと高齢者の交流事業を実施する。 ・高齢者が生きがいを持って元気に暮らすための事業の実施する。
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	・地域住民の顔がわかる。 ・非常時の避難体制の確立が必要。 ・カスミサンショウウオ(絶滅危惧種)の生活環境保全を行っている。 ・土着菌を利用した畜舎の悪臭とハエの発生防止	○自然と安全を守るまちづくり ・地域ボランティアグループと協力しながら自然環境の保全事業を行っていく。 ・非常時に円滑に避難できるよう区と協力し避難訓練を実施する。
【G】 都市基盤整備		
【H】 総務・企画		

碓石地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体
				短期			長期	
				R5	R6	R7	4年以上	
A	土着菌・土着菌堆肥製造	土着菌を堆肥に混ぜ合わせたものを製造販売している。	土着菌 1t 土着菌堆肥 5t	→				ひま陣会 振興会
A	特産品開発(つばくらめ白筍)	チャレンジ支援交付金を活用した特産品開発事業。圃場の整備及び商標登録、市場調査及びロゴ作成を行った。	将来的には、退職した人の経済的な足しになるような特産品として成り立たせるようにする。また、今後は宮地岳地区にできる道の駅に出店する体制を整えていく。	→				天女会
A	椿苗植栽活動	毎年、振興会で椿を購入し、地区内の住民を対象に無料配布を行っている。	椿の成長が遅いため、20～30年後の搾油を目指し、子や孫の代に恩恵を受ける形を目指す。	→				振興会
A	土着菌堆肥を利用した野菜作り	毎年、『碓石ふるさと祭り』の収穫祭用に大根を栽培している。	大根をメインとして、他の野菜も試験的に栽培する。	→				振興会
B	亀ヶ淵の遊歩道整備	チャレンジ支援交付金を用いて宮地岳地区振興会と共同で歩道整備などを実施。負担金を折半して拠出。	年に1回以上は宮地岳地区振興会との交流を兼ねて、清掃作業を実施していく。	→				振興会
C	碓石ふるさと祭り	碓石地区の子ども相撲や野菜収穫祭などのイベントで集客力を増やしている。	地域住民が、誇りを持って自主的に参画し、運営できるように体制の構築を図る。	→				ふるさと祭り 実行委員会
C	農産物品評会	年に一回、地域住民が作った野菜や加工品等の品評会を実施している。品評会に出された品物は、ふるさと祭りにて販売している。	各戸からの出品物を1品以上募る。	→				ふるさと祭り 実行委員会
C	夏祭り	帰省客、地区住民の交流を目的に夏祭りを開催。出店、抽選会、花火などを行っている。	地域人口の半分以上参加してもらえるように、企画運営を支援していく。	→				振興会 碓石スポーツクラブ
C	合同球技大会	現在、2年に1回の中田地区との地域間交流事業として球技大会を開催している。	地域の元気な人が全員参加できるよう、競技内容を検討していく。	→				振興会
C	宮地岳地区振興会との交流事業	宮地岳との地域間交流として、イベント開催時の出店等を行っている。	鮎の放流等を通じて、大宮地川環境保全を目的に、流域の振興会での交流を深める施策を検討していく。	→				振興会
C	子ども相撲・赤ちゃんの土俵入り	『碓石ふるさと祭り』でのイベントとして、子ども相撲・赤ちゃんの土俵入りを実施。	令和元年 赤ちゃん土俵入り 7人 子ども相撲 30人	→				振興会
C	子ども樽みこし	10月の秋祭り時に、子ども会が中心になって樽みこしと御神楽を舞い、地域内を練り歩く。子どもの減少が危惧される。	毎年10月に実施する。	→				子供会
C	鬼火焼き	地区の子ども会が中心となって鬼火焼きを実施している。	地域広報紙などによる周知活動を実施する。	→				振興会
C	竹あんどんづくり	地区のボランティア組織『きばろ一隊』が中心となって、大晦日に碓石十五社宮や正教寺に竹灯りを提供している。	神社と寺社で合計300個程度の竹あんどん作成し提供する。	→				きばろ一隊

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間				実施主体
				短期			長期	
				R5	R6	R7	4年以上	
C	高齢者と子どもたちの交流事業	地区で開催していた『長生き感謝祭』と同日に小学生と高齢者によるグラウンドゴルフを実施。		→				振興会
D	ふれあい書道教室	小学生を対象に夏季書道教室を開催している。	夏休み期間中に3回実施する。	→				振興会
E	筋力トレーニング教室	市の高齢者支援課の協力を得て、健康寿命を延ばすことを目的に、60歳以上を対象とした『筋力トレーニング』を実施している。	週1回を継続する。	→				振興会
E	地域福祉ネットワーク	行政区長を中心に見守りネットワークを構築している。	各区合同で講習会等実施する場合など、日程や内容の調整を振興会として支援をする。	→				行政区
E	いきいきサロン	市社会福祉協議会の協力を得て、地域の高齢者のためのいきいきサロン事業を行っている。	広報誌への掲載など、より多くの高齢者が参加できるような体制づくりの構築を支援する。	→				振興会
F	カスミサンショウウオの観察	碓石農地水活動組織が主体となって事業を実施している。時期は2月～4月。	年1回の生態系観察を実施する。	→				活動組織
F	環境美化作業	老人クラブや子ども会を主体に、花植え作業を実施している。	毎年春に老人会、秋に子ども会で実施。椿の植栽は、地区内の各家庭の庭などに定植を促す啓発活動を実施する。	→				老人会 子供会
F	木炭投入作業	碓石農地水活動組織、子ども会、消防団を中心に、木炭の投入作業を行う。	3か所の木炭入替をローテーションで実施する。	→				活動組織 子供会

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。

